

# ビワ生育情報

第 1 0 報  
千葉県農林水産部  
令和 4 年 7 月号

本年は、着花房率が平年よりやや低く、寒害の発生もみられました。果実は小玉傾向でした。また、果樹カメムシ類の被害が多く、春から収穫期にかけて気温が高く、紫斑症や日焼けの発生がみられました。

## 1 本年度産果実の特徴

### (1) 収穫期

収穫期を表 1 に示した。暖地園芸研究所における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「楠」が 5 月 24 日、5 月 30 日、6 月 3 日、「大房」が 5 月 30 日、6 月 3 日、6 月 7 日、「田中」が 6 月 2 日、6 月 7 日、6 月 10 日であった。収穫盛期は 3 品種共に平年より 2～7 日早く、前年より 3～6 日遅かった。

表 1 収穫期（暖地園芸研究所）

品 種	収穫始期（月．日）			収穫盛期（月．日）			収穫終期（月．日）		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	5.24	5.28	5.20	5.30	6. 1	5.24	6. 3	6. 5	5.27
大 房	5.30	6. 2	5.28	6. 3	6. 6	5.31	6. 7	6.10	6. 2
田 中	6. 2	6.10	6. 1	6. 7	6.14	6. 4	6.10	6.18	6. 8

平年：平成 4 年～令和 3 年の平均

### (2) 果実の大きさ及び収穫量

収穫果実の大きさと品質を表 2、3 に示した。果重は「楠」が 51g、「大房」、「田中」は 3 地区の平均でそれぞれ 70g、68g であり、「楠」は平年の 98%、「大房」は 88%、「田中」は 93%であった。

横径は「楠」が 4.4cm、「大房」、「田中」は 3 地区の平均でそれぞれ 5.0cm、4.7cm であり、3 品種とも平年より小さかった。縦径は「楠」は 4.7cm、「大房」、「田中」は いずれも 3 地区の平均で 5.2cm であり、3 品種とも平年より小さかった。

果形指数は「楠」が 0.93、「大房」、「田中」は 3 地区の平均でそれぞれ 0.95、0.91 であり、3 品種ともおおむね平年並みであった。

本年の着花房率は平年よりやや低く、寒害の発生もみられた。収穫果実は小玉傾向であった。春から収穫期にかけて気温が高く推移し、強い日差しがあったため、紫斑症や日焼けの発生が見られた。また、果樹カメムシ類の被害が多かった。これらから、最終的な収量は平年より少なかった。

### (3) 糖度及び酸度

糖度は「楠」が 12.8、「大房」、「田中」は 3 地区の平均でそれぞれ 11.4、12.3 で、3 品種とも平年より高かった。

酸度は「楠」が 0.23、「大房」、「田中」は 3 地区の平均でそれぞれ 0.20、0.40 で、3 品種とも平年より高かった。

### (4) 食味

果肉硬度は「楠」が 0.49 と平年より小さく、「大房」、「田中」は 3 地区の平均でそれぞれ 0.57、0.59 で、「大房」は平年並み、「田中」は平年より高かった。

糖酸比は「楠」が55、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ57、31で、3品種とも平年より小さかった。

### (5) 病害虫及び生理障害の発生

本年は、果樹カメムシ類の飛来数が多く、産地における被害が多く発生した。春から収穫期にかけて気温が高く、強い日差しがあったため、紫斑症や日焼けが発生した。また、がんしゅ病の発生も多くみられた。

表2 果実の大きさ

品 種	調査地点	果 重(g)			横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	51	52	53	4.4	4.5	4.9	4.7	4.8	5.5	0.93	0.94	0.88
	青 木	61	77	69	4.8	5.2	5.0	5.0	5.3	5.4	0.96	0.98	0.93
	南無谷	75	78	80	5.1	5.2	5.3	5.4	5.4	5.5	0.94	0.97	0.96
	暖地園研	74	83	78	5.1	5.4	5.2	5.4	5.5	5.5	0.95	0.97	0.94
	平均	70	80	76	5.0	5.3	5.2	5.2	5.4	5.5	0.95	0.97	0.94
大 房	青 木	59	72	72	4.6	5.0	4.9	5.0	5.4	5.4	0.91	0.92	0.90
	南無谷	79	71	79	4.8	4.9	5.1	5.5	5.5	5.7	0.87	0.90	0.91
	暖地園研	67	78	76	4.8	5.1	5.0	5.1	5.6	5.5	0.94	0.92	0.92
	平均	68	74	75	4.7	5.0	5.0	5.2	5.5	5.5	0.91	0.91	0.91

果形指数：横径／縦径

平均：3地区の平均値で平年値は平成4年～令和3年の平均

表3 果実品質

品 種	調査地点	糖度(Brix%)			酸度(g/100ml)			硬 度(kg)			糖酸比		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	12.8	12.5	12.8	0.23	0.14	0.15	0.49	0.52	0.53	55	91	84
	青 木	11.4	10.8	10.9	0.18	0.15	0.13	0.57	0.56	0.55	63	78	82
	南無谷	11.4	10.7	10.9	0.22	0.17	0.14	0.59	0.56	0.59	52	68	77
	暖地園研	11.5	11.4	11.6	0.21	0.18	0.14	0.57	0.58	0.60	56	68	84
	平均	11.4	11.0	11.1	0.20	0.17	0.14	0.57	0.57	0.58	57	71	81
大 房	青 木	12.8	11.2	9.9	0.43	0.29	0.32	0.57	0.55	0.54	30	42	31
	南無谷	11.3	10.5	9.3	0.41	0.31	1.97	0.61	0.56	0.59	28	35	38
	暖地園研	12.8	11.6	12.3	0.36	0.29	0.31	0.59	0.56	0.00	36	41	39
	平均	12.3	11.1	10.5	0.40	0.30	0.87	0.59	0.56	0.38	31	40	36

糖度：屈折糖度計の測定値、酸度：果汁100ml中の酸含量をリンゴ酸(g)に換算した値

硬度：果実硬度計による測定値、糖酸比：糖度／酸度

平均：3地区の平均値で平年値は平成4年～令和3年の平均(ただし硬度は平成12年～令和3年の平均)

## 2 最近1年間の気象及びビワの生育状況

令和3年7月～令和4年6月までの月別の気象を表4に示した。年平均気温は16.0℃で、平年より0.2℃高く、前年より0.6℃低かった。降水量は年合計が2,101mmで、平年の107%、前年の131%であった。日照時間は年合計が2,118時間で、平年の106%、前年の103%であった。

花房の出蕾期は3品種とも平年並みであったが、10月の平均気温は平年並み、11～12月の平均気温は平年より高く推移したため、開花は平年より早く進んだ。12月下旬から2月は平均気温が低く推移したが、3月から4月は平均気温が高く推移したことから、収穫期はおおむね平年並みとなった。

表4 令和3年7月～令和4年6月の気象（暖地園芸研究所）

年	月	気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
R3	7	25.0	24.6	23.9	357	184	405	207	179	76
	8	26.4	26.0	27.2	210	110	16	198	218	303
	9	22.2	22.9	23.9	198	232	161	125	153	137
	10	18.3	18.2	17.4	295	274	244	159	138	122
	11	14.2	13.4	14.8	172	157	33	182	146	159
	12	9.0	8.7	8.4	139	97	2	202	165	157
R4	1	5.4	6.1	6.6	40	92	77	191	175	175
	2	5.6	6.6	9.2	113	87	67	170	154	207
	3	11.2	9.6	12.7	78	174	177	180	167	166
	4	14.9	14.0	14.4	70	169	129	157	177	227
	5	18.1	18.0	18.7	240	163	199	183	188	171
	6	21.5	20.9	21.4	192	229	95	166	135	163
平均/計		16.0	15.8	16.6	2,101	1,968	1,602	2,118	1,993	2,061

平年：1991～2020年までの平均

### 8月～10月の作業

8月下旬～9月下旬はせん定及び施肥の適期となる。花芽は9月中旬頃には確認できるようになる。10月に入ると発育が進み、花房の形を表し、10月上中旬には摘房・摘らいの作業が始まる。

#### (1)せん定

8月下旬～9月中旬に行う。徒長枝や混んでいる枝を間引いて、樹冠内部に光が入るようにする。作業の効率化を図るため、二段盃状形の樹形を目指し、低樹高化に努める。

#### (2)施肥

9月に基肥を施用して花房の伸長、充実を図る。耕土の浅い園では10a当たり成分量で窒素12kg、リン酸9kg、加里9kgを施用し、耕土の深い園では窒素11kg、リン酸9kg、加里7kgとやや少なめにする。

#### (3)摘房・摘らい

摘房は発育不良の花房や混み合った花房を間引き、1樹の全枝の約60%に花房を残す。

摘らいは花房基部から3段目までの小花梗の中から充実した2段を残して他をかき取る。花房の長さが3～5cmの時に摘らいすることで、開花期間を延長させ、寒害の被害を受けにくくすることができる。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室  
電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。  
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>